

# チームごっくんニューズレター

## 脳血管と嚥下障害について

脳血管障害は脳の血管から出血したり（脳出血、クモ膜下出血）、詰まってしまったり（脳梗塞）する病気の総称です。脳組織の障害により麻痺などの後遺症が残る可能性が多くあります。どこが麻痺するかは脳組織の、どの部分が障害されるかで違います。

脳梗塞や脳出血などで嚥下を司る迷走神経や舌咽神経が障害されると上手く咽頭や喉頭の筋肉に運動の指令が送れなくなるため嚥下障害を引き起こします。

迷走神経	感覚神経・運動神経の一つ。嚥下運動や声帯の運動耳介後方の感覚などに関係する
舌咽神経	喉、舌の3分の1の感覚や咽頭筋、耳にかけての感覚を担っている脳神経の1つです。

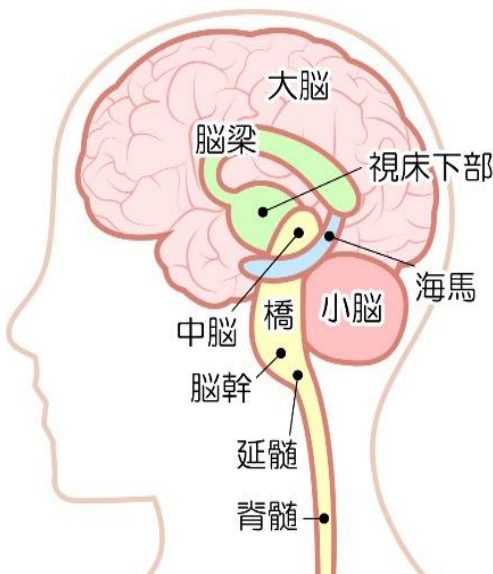
脳神経は全部で12対あります。

### 脳梗塞により嚥下障害が起こるメカニズム

咀嚼した食塊がのどまで送られるとその情報はのどの神経から延髄を介して脳に伝わり、脳からのどのような筋肉を統合して働かせる指令がかかり嚥下運動が行われます。

脳梗塞などにより脳がダメージを負うと脳からの指令が正常に出ない為、食べ物を口に入れてもものどの筋肉をスムーズに動かすことが出来ず嚥下障害が起こります。

摂食嚥下に関連する知覚の障害や運動障害が生じると、うまく食べられない、噛めない、飲み込めない、むせるなどの症状が認められます。特に延髄や橋といった部分に病変が存在すると重度の摂食嚥下障害が起こります。



球麻痺	延髄の嚥下中枢に障害 嚥下反射 消失～減弱 高次脳機能 なし その他 舌の萎縮 嚔声
仮性球麻痺	大脳皮質 中脳 橋に障害 嚥下反射 残存する（飲み込む筋力の低下、協調性の低下あり） 高次脳機能 多彩な症状 その他 軟口蓋反射消失